

みなとぴあボランティアレター 第48号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2022.12

夏から秋にかけて多くのイベントを実施しました！

8～9月 暮らし展ショップづくり

8月から9月にかけて第19回むかしの暮らし展「ごっつお！」のショップづくりを行いました。このショップは暮らし展の開催に合わせて新潟の名産を取り寄せて販売するものです。8月から打ち合わせを行い、陳列班となんかや（新潟でいう駄菓子屋さん）制作班に分かれて活動を行いました。陳列班はなんかやの暖簾やのぼり旗などの制作と商品の陳列を担当し、なんかや制作班は木材をつかってなんかやを制作しました。陳列班は旗の色や文字のフォントなど細部までこだわってつくっていました。またなんかや制作班は設計図の作成や木材の調達からはじめ、むかしなつかしいなんかやを再現しました。



制作メンバーで記念写真

ボランティアのみなさんの協力のおかげですてきなショップが完成しました。ショップには笹団子などの新潟名物が並び、多くの来館者の方が買い物に来ていました。またショップ完成後はお店番として来館者の買い物のサポートもしていただきました。ショップは暮らし展開幕後も活用していきたいと思います。

10/30 歴史探訪「紫雲寺潟跡地・松ヶ崎掘割跡を訪ねる」

10月30日（日）に歴史探訪を実施しました。歴史探訪を実施するのも約3年ぶりとなります。今回は「紫雲寺潟跡地・松ヶ崎掘割を訪ねる」というテーマのもと、ボランティアの山崎雄さんの案内で紫雲寺周辺を半日かけて探訪しました。

最初に紫雲寺地区公民館で紫雲寺周辺のジオラマを見学し、紫雲寺潟干拓の舞台を確認しました。ジオラマをみると落掘川や境川といった川や砂丘の位置がわかりやすく確認できました。また紫雲寺周辺の航空写真もあり、参加者たちは熱心に見学していました。



紫雲寺地区公民館

次に松塚漁港へ向かい落掘川河口を見学しました。この落掘川は当時「長者掘」と呼ばれており、紫雲寺潟干拓の際、潟の水を減らすために海へ切り落とした川です。当時はどのように切り落としたのかなど参加者たちは想像を膨らませていました。その後、紫雲寺へ向かい紫雲寺潟の干拓を実行した竹前小八郎及び権兵衛兄弟の墓を見学しました。ここでは竹前家代々の墓をみながら竹前家による紫雲寺潟干拓についての説明を聞きました。また紫雲寺に「紫雲寺」という寺があることを知らない方も多く、はじめて立ち寄った人は境内を興味深く散策していました。

次に向かったのは米子集落にある白山神社です。このあたりは境川を締め切ったとみられる場所になります。現在は田園風景となっていますが、よく見ると少し小高い場所がいくつかみられました。これは干拓前に紫雲寺潟にあった小島の跡であり、白山神社もその小島のひとつと思われます。参加者たちは資料に書いてある地図と照らし合わせながら田園風景をみていました。

その後境川を締め切った場所を確認しました。紫雲寺潟の干拓は竹前家の後、新発田藩に引き継がれます。新発田藩は干拓するために境川を締め切り紫雲寺潟の逆流を防ごうとしました。締め切った場所は現在「メ切」という集落になっており、バス停にも「メ切」という文字が記されていました。

最後に加治川と姫田川の合流地点を見学し、歴史探訪は終了となりました。紫雲寺潟干拓について学ぶことでその後の松ヶ崎掘割の掘削についてより知識を得ることができたのではないかと思います。また絵図や地図と照らし合わせながら地域の歴史を紐解く楽しさを改めて感じることもできました。



11/3 文化の日ボランティアイベント

11月3日(木祝)は文化の日であり、新潟市内の文化施設が無料で観覧できる日となります。みなとぴあの常設展示も無料で観覧することができるため、毎年多くの人でにぎわいます。去年は同日に塔屋見学会や敷地スタンプラリーを実施しましたが、今年もボランティアでイベントを開催しました。今回は新潟税関支署さんで税関150周年記念イベントを開催することで、ボランティアでは旧新潟税関庁舎内で塔屋見学会、敷地ガイドツアー、たいけんプログラム、ボランティア紹介展示を行いました。

当日はきれいな秋晴れで過ごしやすい気温となり、イベント日和となりました。ボランティアは明治時代の税関職員の衣装やハッピーを着て来館者を迎えました。

塔屋見学会は幅広い世代の方にご参加いただき、特に小さなお子さんが塔屋へあがるための急な階段を頑張ってのぼっていたのが印象的でした。また塔屋からは敷地の紅葉や新潟税関支署さんのイベントの様子をみることができました。

敷地ガイドツアーは10時30分、11時30分、13時30分、14時30分の4回開催しました。各回10名弱の方にご参加いただき、ガイドは敷地の建物などについて30分程度解説をしました。参加者のなかには新潟市に住んでいるがみなとぴあには来たことがなかったという人も。敷地内にある堀の意味や各建物の歴史を知ることによって新潟の新たな魅力を発見してもらえたのではと思います。



たいけんプログラムは今回初めて旧新潟税関庁舎を会場にして砂絵づくり、ペーパークラフトづくり、よろい着用体験の3つのプログラムを実施しました。砂絵やペーパークラフトは、旧新潟税関庁舎をモチーフにしたものです。それぞれ模様を描いたり色をつけたりしてオリジナルな旧新潟税関庁舎をつくっていました。またよろい着用体験では、よろい工房で制作したよろいを着ていただきました。多くのお子さんがよろいを着用する一方で、その親御さんや90代の方が着用する場面も。実際によろいを着用してみるとよろい自体の構造にも興味が湧いてくるようで、よく観察している方もいらっしゃいました。またボランティアが折り紙で作成したかぶとをかぶって記念写真を撮っている方も多くいらっしゃいました。

そしてたいけんプログラムの会場ではボランティア紹介展示も行いました。これはみなとびあや新潟の歴史だけではなく、ボランティア活動にも興味を持ってもらいたいというボランティア活動からの意見で実現したものです。これまでの活動の写真を多く取り入れて作成しました。ボランティアが集まって見ている時には思い出話に花が咲く場面も。これをきっかけにボランティアにも関心を示してもらい、新しい仲間を増やすきっかけになればと思います。

新潟税関支署さんではダンスパフォーマンスや麻薬探知犬のデモンストレーションといったステージイベントをはじめ、検査機器の公開や缶バッジづくり、巡視艇「りゅうと」の公開などを実施しており、ボランティアが現在の税関業務について勉強する機会にもなったのではと思います。またその後は「しもまち早川堀通り☆キャンドルナイト」や「新潟花火ショー」などもあり、イベント盛りだくさんの一日となりました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。そしておつかれさまでした。



【今回のイベントについてボランティアの岩間正吉さんから素敵な俳句・短歌をよんでいただきました！】

○俳句

- ・親と子で 砂絵をつくる 文化の日
- ・鎧着て 歴史体験 秋の館
- ・芸の心 はぐくむ砂絵 秋日和
- ・砂絵描き 秋を楽しむ みなとびあ

○短歌

- ・見る人も 体験する人も 文化の日 みなとびあに来て 歴史を楽しむ
- ・子供らが 砂絵で彩る 昔の湊 ああ色に出たり 歴史のときめき
- ・鎧着け 歴史体験 子らの顔 異次元の世界 秋の博物館
- ・作品を 持ち帰る子の 笑顔見て みなとびあは 秋日和かな

11/6 新潟県政記念館見学会

11月6日（日）に新潟県政記念館の見学会を実施しました。新潟県政記念館は明治16年に「新潟県会議事堂」として建設され、県政審議において重要な役割を果たしてきました。昭和44年には重要文化財に指定され、大規模解体修復工事を経て昭和50年に「新潟県政記念館」として公開されました。今回は令和4年12月1日から令和10年3月31日まで耐震改修工事により休館するため、休館前最後の見学会を実施しました。

当日は本館ボランティアでもあり、新潟県政記念館副館長でもある山崎雄さんにご案内いただきました。最初は館の構造について、屋根をつくる際「トラス小屋組」といわれる洋式建築技法を取り入れていることなどをご説明いただき、その後建築にあたり使用した松杭を見せていただきました。新潟地震の際にも屋根瓦が数枚落ちた程度で大きな被害はなかったとのことで、明治時代の建築にも関わらず丈夫な設計がされていたことがうかがえます。その後は西蒲区巻出身で新潟県政記念館の設計を行った星野総四郎の経歴や重要文化財に指定された際のことなどをお話いただきました。また明治時代の県政や議会制度についてもご案内いただきました。特に県議会の投票箱や議会で使用された号鐘からは当時の議会の雰囲気を感じることができました。

そして新潟県政記念館のメイン会場ともいえる議場では、実際に議員席に座りながら当時の議会についての説明を聞きました。当時、席はくじ引きで決められていたとのこと。加えて議論しやすいように様々な党派の議員がお互い顔を見渡せるように設計されていたようです。会場の絨毯も特注品で新潟の家具メーカーに依頼し、色などをできるだけ当時のものに近づけてもらったとのことでした。細部までこだわりがたくさんあり、これまでに以上に魅力を感じることができました。

最後は特別に新潟県政記念館のシンボルである八角塔屋に上がらせていただきました。旧新潟税関庁舎と同様、急な階段がとてもスリリングでした。塔屋からは市役所通りを見渡すことができました。当時は現在のような高い建物がなかったので、現在より見通しがよかったのではないかと思います。今後の改修工事では耐震補強に加え内装などをより当時のものに近づけていくとのこと。5年半後、見学するのが楽しみです。



【編集後記】

8月から11月まで毎日のようにボランティアのみなさんにご活躍いただいたような気がします。今回のレターで紹介した活動に加え、9月から11月には学校対応に数多くご参加いただきました。また旅行の割引も始まったことによりツアーや一般のお客様にガイドをする機会も多くなりました。たいけんプログラムもほぼ毎回サポートしていただいています。みなさんあってのみなとびあだと実感しています。本当にありがとうございます。ところでつかれはたまっていますか？朝夕と昼で寒暖差があり体調を崩しやすい季節です。おいしいものをたくさん食べてストレス発散しましょう。そして今後も無理のない程度に活動いただけたら幸いです。（鈴木）

2022.8月現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、ここもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

